

Japanese Association of Trombonists
JAT NEWS

第 57 号

日本トロンボーン協会会報 2002.6 発行

事務局：〒112-0013 東京都文京区音羽1-20-14MBS音羽ビル5F プロアルテムシケ内 tel.03-3943-6677 fax.03-3943-6659
 郵便振込：日本トロンボーン協会事務局 東京 9-175867

日本トロンボーン協会 第7回懇親会レポート

2002年3月24日(日) 18:00~21:00 北区滝野川区民センター5F小ホール
 日本トロンボーン協会ホームページよりいくつかのシーンをご紹介します。

第7回懇親会が下記の日程で行われました。参加していただいた方々にスタッフ一同心からお礼申し上げます。特に遠くから参加していただいた方々お疲れ様でした！ 第7回トロンボーン懇親会 アルバムより



第7回トロンボーン懇親会

今回の全員合奏は「カヴァレリア・ルスティカーナの間奏曲」と「君の瞳に恋してる」I love you baby〜・・・
 前回よりちよつと人数少なめですが迫力は変わりません。
 写真では分かりませんが皆さん顔が真っ赤です。

オークションでなんと中国製の楽器(ドイツタイプ)を落札した初参加の方(右)。なんとこれがはじめてのご自分の楽器だそうです。青柳肉絲!!



第7回トロンボーン



マウスピースと楽器の関係について語る
 萩谷 克己氏(佼成ウィンドオーケスト)

やはりこちらの方が美しい。若い女性のトリオ。楽器の角度、表情がばらばら。



INFORMATION

ムジカ・ムンダーナ・トロンボーン・アンサンブル&ベン・ヴァン・ダイク 特別演奏会

華麗なるトロンボーン響き

主催：MUSICA MUNDANA TROMBONE ENSEMBLE

後援：日本トロンボーン協会 / オランダ大使館

協賛：株式会社 ネロ楽器

お問い合わせ ; yun@sky.zero.ad.jp

入場料：3000円(全席自由)

2002年7月6日(土) 19:00 開演

東京文化会館 小ホール (JR上野駅公園口下車)

Program

Ilja Reijngoud : A Beautiful Day (日本初演)

W.Warton : The Spitfire D.Bourgeois : Scherzo Fune'bre

T.Albinoni : Adagio A.Levadev : Konzert

J.Stevens : The Chief etc...

Ben van Dijk

ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団ソロ・バストロンボーン奏者。



MUSICA MUNDANA TROMBONE ENSEMBLE MEMBERS

井上 順平 井口 有里 石原 左近 大川 真紀夫 尾又 好美 勝部 健太郎 國田 雅裕 津崎 知之 東條 あづさ 堂
本 雅樹 中村 勝生 沼田 司 福井 実織 堀川 和美丸田 有里 尹 富弘 郡 恭一郎 比嘉 一博 梁井 伸一 佐久間
健二 澤野 展之 下里 高志 Piano : 高良 仁美

葛飾吹奏楽団第25回定期演奏会

平成14年7月7日(日) 1:30P.M.開場 2:00P.M.開演

かつしかシンフォニーヒルズモーツァルトホール

入場料(全席自由) 前売り 1,000円/当日 1,200円

客演 ジョゼフ・アレッシ 指揮 津田雄二郎

曲目 「トロンボーン・コンチェルト (J.テ・メイ) トロンボーンコンチェルト(曲目未定)

バレエ音楽「青銅の騎士」より (R.グリエール) 2002年度吹奏楽コンクール課題曲より

!!お待たせしました 100TROMBONES CONCERT2001CD 発売間近!!

皆さま大変お待たせしました。2月22日に発売予定でしたCDの製作が遅れていましたが やっと発売のメドが立ちました。身体の不調のためコンサートへの出演を取りやめたジョージ・ロバーツの音がCDには是非必要と思ひロイド・エリオット、ハリー・ベッツに相談、長年仕事を共にしてきた録音技師ダニー・ウォーレン、パラマウント映画社のステファニー・マーレイ各氏の協力によりロバーツ氏の録音に成功。ここまでではよかったです、(ここから言い訳になります)3月にはハリーベッツ氏のスタジオ改装で1カ月更新が途絶え、4月にはジャズステージのマスターリング(最終ミキシング)を自分たちで仕上げたいとのことマスターテープをアメリカへ送り、サイドパラマウント映画社のスタジオでロイド、ベッツ両氏は音作りをして下さったのでした。5月に入ってテープが返ってきてそれをベッツ氏に送ってOKのメールをいただいたのが6月8日、CDの録音時間80分に迫る79分17秒の演奏時間となった。定価¥3000(税込) すみません、割引ができないくらい製作費がかかってしまいました。

お申し込みは プロアルテムジケまで TEL 03-3943-6677 FAX 03-3943-6659

アラン・マンフラン & フランツ・マッソン

レッスン会レポート 郡恭一郎

去る3月12日に渋谷アクタスにて、皆様良くご存知の元バリ・トロンボーン・カルテットのアラン・マンフラン氏とベルギー出身のバス・トロンボーンの名手、フランツ・マッソン氏のレッスン会を行った。彼らはこの時期にジョン・ミュンファン氏に率いられて来日中であつたフランス放送フィルハーモニー管弦楽団のメンバーである。私も昭和音大、尚美学園、国立音楽院とクラスを持ち、有望な生徒も徐々に出来て来ているのだが、留学する者はまだいない。逆に世界中の奏者に一番沢山会えるのは東京かもしれない。今迄も各公開レッスンの受講を勧めたり、ハウスフィールド氏に個人的に御願いし、プライベートレッスンをやって頂いたりした。今回も良い機会なので生徒にも持ちかけた所、トントン拍子に受講の運びとなった。マンフラン氏とは旧知の親友であり、私の師の一人でも有り、今回5年ぶりの再会をお互い大変喜んだ。

ウォームアップを体験した事があるが、難易度、音域、テクニック等どれを取ってもレベルの高い、凄い物であつた。

当日は男女2名ずつが個人レッスンを受講した。曲はダビッド1楽章、バラ：アンダンテとアレグロ、ピバルディ：ソナタ1番、ブートリー：カプリチオであつた。全内容をまとめると、ブレスは豊かにたっぷり、流れに乗って吸い、いいタイミングで出す事。アタックと同時に密度の濃い息を送る事を忘れないように。舌がきつ過ぎると短い音が美しく響かない。ダビッドはロマンチックな雰囲気大切に（あまり鋭いタンギングは音楽の流れを阻害してしまう。）タンギングの際、舌は歯よりも前に出るのはあまり好ましくない。レガートの時の発音の際は舌を奥の方で使うのが良いだろう。ブレスの位置はあくまで音楽的な事を優先して決める事。またフレーズの中でのブレスは多すぎない事。

朝10時半から始まつたアランのクラスはまず最初に彼と受講・聴講者全員とのマンツーマンでのウォーミングアップから始まつた。これはいわゆるフランス式（欧米諸国では非常にポピュラー。）のウォームアップと基礎練習を兼ねた、彼らにはお馴染みの方式で、ロングトーン、リップスラー、タンギング、スケール、レガートと彼の瞬間的なアイデアで色々パターンを



青木治夫 フランツ・マッソン アラン・マンフラン 筆者

＝実際、立派な体格の彼は、51歳になるにも関わらず、相変わらず一息でのフレーズが長い事に、改めて感心させられた。日頃から唇ポジションを積極的に使い、（ただし闇雲にはなく、前後関係やレガートの為に有効なポジショニングを考える事が重要）音程、鳴りムラが出来ない様に充分さらい込む。スライドと舌をタイミングよく合わせ、ポルタメントが

変えながら、（これは直ぐに聞いて暗譜し、吹かねばならない為頭の体操も兼ねられ、とても良いと思う。）説明も交え40分程皆で汗を流した。留意点は、アンブッシュアのフォームを大切にしながら、温まる迄は中音でリラックスした美しい「聞く人が喜びを感じられるような音」になってくる様、じっくり時間をかけて、温まってきたら、上下に音域を広げていく。出来るだけ多くの調性に日頃から馴染んでいく事。楽な音量で良いので、一息で長く吹く練習もする事等・・・。もう少し時間があれば、より充実したパターン迄発展させたのだが、少し惜しい気がした。実際筆者はフランスでバリトロン4人それぞれの現地向けのこの

からしないよう、又各音を的確な位置にスライディングさせる。しかしリラックスで腕は堅すぎず、流れに乗って、ピブラートは程良く、センス良く、音楽的ニュアンスをいつも大切に、符点八分音符と十六分音符の関係を正しく扱うが、十六分音符は引っかけすぎない事、等等。私の教え方が元々彼らの方式の流れが強いので、生徒達もスムーズに受け入れられたようだ。彼は和やかな雰囲気の中にも、妥協せず、出来るまで辛抱強く教えていた。ハードスケジュールや風邪もひいていたが、見本も沢山吹いてくれ、演奏家としても指導者としても、卓越した面を充分感じさせてくれ、私も生徒達も多に勉強になった。

最後に昭和音大の面々でアンサンブルを行った。ハートレイ：カンツォーナ、ラベル：ババーヌ、ベダーソン：ボスコ・ロスコの三曲であったが、ハートレイではやや遅めのテンポでルネッサンスと近代が入り混じったような雰囲気スタイルで演奏するのが良いだろうとの事だった。ラベルでは彼のアイディアで1、2番を中央に3、4を下手側、5、6を上手側に配置する、バリ・トロンボーンアンサンブル配置とも言うべき形で行った。やはり血なのだろうか？。彼が指揮をして曲を始めると、とたんに色や香りがそれらしくなって来たのに大変驚かされた。見本として吹いてくれた例のハイトーンのメロディーが、とても美しく自



然で絶品であった。ベダーソンでは、スイングし過ぎない（跳ね過ぎない）、音価を大切に、スタッカートも短すぎないで、等非常にオーソドックスな解釈であるが、ツボを押さえていて、それらしい演奏に短時間で仕上げってしまう辺り、流石と思った。フランスは昔からクラシックとジャズの境が高くなく、（両分野やる人も少なくない。）彼らもベダーソンを聞いて育った世代のようで、非常に楽しみながら指導をしていた。

彼は髪もすっかり白くなったが相変わらず魅力的な笑顔、人柄、性格で、周りの人々全てを幸せにしてくれる。当日は夜にブルックナーの4番というハードなスケジュールにも関わらず、16時迄大変熱心に指導して頂けた。約18年間やや特殊なアンブッシュア（全音域で下唇を巻き込みぎみ）で吹いていたと言う彼（それでもトゥーロンやジュネーブ等の国際コンクールで入賞してる。）はその後オーケストラでの大フォルテに対応する為に、ノーマルなアンブッシュアに改善した。（これが彼にとってはかなり大変な事であったらし

い。）筆者は1984年にアメリカのインディアナ大学で行われた国際ブラス・コングレスのテープを聞き、バリトロの歴史的名演とその合間になされた彼のトマジの協奏曲の演奏に、いたく感銘を受けた。そしてバリトロでの来日の度にレッスンやコンサート、飲み会等で交流を深め、フランスで彼のレッスンにも度々触れた。どちらかと言うとバリトロ内では縁の下の力持ち的役割が多かった彼であるが、バリトロ以外での彼の名演に度々触れた私は、彼の底力を良く知っているつもりである。火がついた時の彼は本当に凄い。恐らくコンクールの入賞時もこんな感じだったのだろう。（81年のミュンヘンコンクールで彼とベックに前後を挟まれた萩谷さんに後日、当時の彼の様子を伺ったら、そ

の頃はキングの5 B（9インチのシングル・バスに近い赤ベル・ニッケルスライドの大きい楽器）に5 G位の大きいマウスピースを付けて、派手ではないが、豊かで綺麗な音で安定感と確実性に優れた丁寧な演奏をしていたとの事。彼のセクションでは1番のバトリス・ブシェは黄色のエドワーズ、アランはコルトワ400の赤のハグマン（マウスピースは以前はコルトワ（5 G位と6ハーフを曲によって使い分けていた）だったが今回はベンジの6ハーフAL）、フランツは赤のベッソンのハグマンというバラバラな組み合わせであったが、音は大変良く溶け合い、本当に絶妙のセクションワークを聞かせてくれた。夜は2回程六本木の居酒屋に繰り出し盛り上がったが、むしろ彼らのほうが日本通で二人共同こうで

はしょっちゅう日本料理屋に行ってるそうで、日本旅行は本当にパラダイスだそうだ。今回も金沢は魚が美味しいと教えていたら、鰯を存分に堪能してきて、喜んでた。休日には、教箇所を精力的に回り、お土産を買い込んでいた。愛すべき2人であった。又の再会を固く誓って別れた。



フランツ・マッソン氏のクラスのレポート（昭和音大4年 川野智博）私はフランツ氏の音は前から彼のオーケストラのCD等で知っていて、大変興味がありました。この日は前から大変楽しみで、ワクワクした気持ちで当日のレッスンに臨みました。

最初に受講者全員がフランツ氏の指導の元でウォームアップを行いました。この時彼は常に体がリラックスした状態を維持する為に沢山、深くブレスを取りその息をきちんと使い切る事と、常に頭の中で「グレート・サウンド」をイメージする事を言っていました。一緒に吹いてくれた彼の音は暖かで艶があり色彩豊かで、良い意味で軽く、とても魅力的な音でした。

個人レッスンでの受講生全員に共通していた事は、常に最初に音楽があり、それに合ったフレージング、吹き方、スライディング（替えポジション等）を考えてレッスンを進めてくれる事でした。この時も頭の中での「グレート・サウンド」のイメージ、深く大きなブレスを意識する事を言っていました。

レッスン中、彼は受講生が吹いている機で大きな声で歌い、身振り手振り体で音楽を表現し、自然と受講生もレッスン、そして音楽に入り込んで行くという、とても熱いレッスンでした。

彼には八重奏も指導して頂き、この時も個人レッスンと同様にブレス、音のイメージ、音楽の流れ、吹き方、フレージング等を的確にまとめて頂き、短時間のレッスンにもかかわらず、まるで別の音楽の様になり、とても興味深いレッスンでした。又この日一日を通じて彼は常に場の雰囲気明るくして下さり、皆レッスンに自然と集中して入り込むことが出来ました。

手前味噌ではありますが、我々の方も、事前に出来る限りの準備をした為か、今回の企画、内容共全般に御好評を頂き、「時間があっという間に過ぎた。楽しかった！。また是非色々やろう。」というお言葉を頂きました。

最後に熱心にご指導頂きましたフランツ氏は勿論、マンフラン氏、貴重な経験の機会を与えて下さった、郡 恭一郎先生、レッスンをスムーズに進めて下さり、降りやすい通訳をして下さった青木治夫さん、色々な我がままを聞いて下さった、渋谷アクタスさんに感謝したいと思います。

郡 恭一郎：シエナ・ウインド・オーケストラ トロンボーン奏者及び楽員代表、昭和音大、尚美学園、国立音楽院、各講師 日本トロンボーン協会・常任理事

アラン・マンフラン

フランス北東部、メス出身。地元の音楽院で学んだ後、パリ国立高等音楽院に進み、1971年に首席で卒業。（同期にM・ベッケ、G・ミリエール、B・スローカー、J・ノレーらがいる。）トゥールーズ・キャピトル管弦楽団とルクセンブルグ放送管弦楽団のソロ奏者を兼任後、'73年にフランス放送フィルハーモニー管弦楽団に入団、22年間ソロ奏者を務め、現在は同団2番奏者を務める。'83年からはM・ベッケと共にリヨン国立高等音楽院で助教授を務め、多くの逸材を輩出している。又フランス郊外のルエイユ・マルメゾン音楽院でも教授を務める。現在生徒は合計で30人いるという。'77年、トゥーロン国際コンクール第3位。'79年、ジュネーブ国際コンクール第2位。パリ・トロンボーン・カルテットのメンバーとしても26年間活躍。アメリカ、日本、スカンジナビア等世界中でコンサートやクリニックを行う。

フランツ・マッソン

ベルギー出身。バス・トロンボーンをベルギーにてロジェ・レナルドに師事後、パリでクロード・シュバリエ（パリ・オペラ座・ソロ・バストロンボーン奏者）に師事。ベルギー放送管弦楽団（1979-92）、リヨン・オペラ座（'93）、のソロ奏者を歴任後、'94年よりフランス放送フィルハーモニー管弦楽団のソロ・バストロンボーン奏者を務めている。プロ・シビターテとテヌートの両コンクールで賞を得る。彼はバストロンボーンを持つあらゆる可能性を多くの人々にアピールしてきた。今迄に、ポール・ウイ、フェルナン・ルエル、ティエリー・メウリス、ミコ・ニシムらの作曲家のバストロンボーンとオーケストラの為の作品を初演してきた。彼はオーケストラ、金管バンド、吹奏楽団等のゲスト・ソリストとしても、定期的に演奏している。1'Angeレーベルにトリオ・リトミックと録音したディスクがある。彼は新しい楽器の開発にも熱心で、現在は自ら開発に携わった、イギリスのベッソンのバス・トロンボーン（ハグマン・バルブ付きのソベリン・モデル）を使用している。本年9月からルエイユ・マルメゾン音楽院のバストロンボーン・クラスの教授に就任する。

事務局からお願い

住所変更

された方はお知らせ下さい。

TEL: 03-3943-6677

FAX: 03-3943-6659

品川トロンボーンクラブ 川根町音楽祭参加レポート

安田 徹

皆様こんにちは、私達は品川トロンボーンクラブの4人組です。実は前回2000年11月に川根町（静岡県は大井川沿いにあるお茶の町）の音楽祭に特別参加をした際の顛末を、折角の機会だから是非協会の会報に掲載して戴くことで4人の記念にしよう、ということで初めて投稿させて頂きました。そして幸いにも今年（2001年）も前年に引続き音楽祭の事務局の方から参加のお誘いを戴く事ができましたので、今回も懲りもせず会報に投稿させて頂きました。

先ず簡単に自己紹介をさせて頂きます。私達品川トロンボーンクラブは
安田 徹（コーン88H）
鈴木信行（シャイヤーズ）
本田正博（コーン88H）
加藤正弘（シャイヤーズ；バストロンボーン）の4人組です。

【コラボレーション】

参加に際して4人で相談した事は、必ず何か「テーマ」とか「拘り」を取り入れる事。前回は、「1曲暗譜で演奏する」ということでブロードウェーメドレー集に挑戦をしました。そして、今回は最近の流行り言葉でいえば、「コラボレーション」とでもいうのでしょうか、協力とか共同して何かをするという意味ですが、私達4人単独の演奏だけではなく、川根町の人と一緒に演奏しよう！ということをやテーマにすることにしました。今回の音楽祭で、当日私達が演奏した曲と編成は次の通りです。

- 1、第7旋法による8声部のカンツォーン第2番：トロンボーン4+トランペット4
- 2、カンツォーン13番：トロンボーン4+トランペット4
- 3、ロック トラップ：人間12人（ボディーパーカッションによる演奏）
- 4、ウエストサイドストーリー：トロンボーン4+ベース、キーボード、ドラムス
- 5、ピンクパンサー：トロンボーン4+トライアングル+ピンクパンサーのぬいぐるみ
- 6、もののけ姫：トロンボーン4

トロンボーン以外のパートは全て現地の方々によ

るもので、唯一「もののけ姫」だけを4人単独で演奏しました。

トランペットとの合奏は私達4人にとっても初めてだったので、とても緊張をしました。「ボディーパーカッション」ですが、正に身体全体を楽器として使うというものです。最近認知度も上がっていて、ヤマハ銀座店地下1階の楽譜売り場でも金管アンサンブルの譜面コーナーの直ぐ近くにワンブロックを占めるほどにもなっています。初心者（勿論私達も初心者ですが）の方でも比較的簡単に出来る、という事で今回プログラムに入れました。ピンクパンサーの演奏では3人が舞台中央で演奏し、そしてバストロのベルにぬいぐるみを固定して舞台の袖から演奏しながらこっそりと一人出て来る、そんな戯れを大真面目で行いました。ところで「コラボレーション」と格好のいいことを言っても、夫々が東京と川根と離れた場所にいる訳ですから、練習だってままになりません。幾らなんでも11月の本番でいきなり合わせるといふことでは余りに乱暴な話ですので、それでは事前に合同練習をしよう！ということで8月に川根町で合同の練習を行うことにしました。

【夏合宿】

合同練習でもなければ中々川根町まで出掛ける事はないと思いますが、本番同様に1泊2日の小旅行でした。この時は合同練習の他に、町内にある某イタリアンレストランの前庭で野外コンサートがあって、地元の吹奏楽団（音楽祭の事務局の方もメンバー）とロックバンドと私達の3団体が参加しました。その時の私達のプログラムは ① 007 ② 明日があるさ。（編曲はメンバーの鈴木さん） ③ 波乗りジョニー（編曲はメンバーの本田さん） ④ もののけ姫 の4曲でした。レストランのすぐ後方を大井川鉄道のSLが走っていて、不思議な取り合わせがとても印象に残っています。

そして満天の星空の下での演奏も忘れがたい思い出です。もののけ姫はとても雰囲気合っていました。

【ハードな合同練習】

川根町には何時も車1台で4人揃って出掛けますが、車の中ではひたすらトロンボーン談義や、テープやCD演奏で盛り上がりません。四人の中では「洗脳テープ」と呼んでいます、その先演奏をする曲などを予めMDやテープに編集をしてメンバーに配布します。ある時「ファンタジーゴスペル」という四重奏の曲を練習していた時に、譜面上に特に演奏に関する指示等が表示されている訳でもなかったのですが、4人が同じ場所で同時

に強弱を揃えたことに、「洗脳テープの効果絶大！」と思わず大笑いをした事があります。川根町には前日11月24日(土)には入っていて、合同練習をすべくそれこそ午後3時から9時まで夕食時間を除いて目一杯の練習をしました。ウエストサイドストーリーではリズムセクションの方々と、8回〜9回くらいは通して練習をしたかと思えます。私達は普段の練習も全て立奏で3〜4時間ほど行いますが、この時は流石に疲れました。確かに事前の練習ということでは決して十分ではありませんでしたが、初めての試みとしての川根町の方々との合同演奏、「コラボレーション」は取り敢えずは成功であったと考えています。今回の合同演奏について事務局の方からも、各団体が単独で演奏する事でも全く問題はないが、色々な演奏形態をお客様に披露できる事で音楽祭も充実する、と有り難いお言葉を戴く事が出来ました。今回の反省として「コラボレーションも良いけど、先ず練習方法を考えなければ！」ということで、やはり本番前夜の練習が相当利いているようです。

今の私達にとって、川根町の音楽祭は一年の中のメインイベントで、川根を核にしてその他の付随した活動内容(日程や取り上げる曲目など)等も決まるというくらいの位置付けになっています。実際こういった具体的な目標があるからこそ、「暗譜しよう！」なんていうことも考えますし、「ステージ衣装を揃えよう」とか「次回はコルトワで揃えましょうか!」とか何やら良からぬことを考えたりもいます。決して後ろ向きな悩みではありませんので、四人で明るく会話を楽しんでいます。どうやら気持ち的には次回も完全に参加をする積もりになっているようです。

最後に今回の音楽祭関係以外のお楽しみを少々

その1:川根町は温泉の町でもあります。本番当日の午前中は露天風呂に入って、すっかりのどかな気分させて戴きました。

その2:大井川の上流は溪谷美や紅葉のスポットとして特に有名です。SLとセットで行けば、雰囲気もまた格別なのですが、私達はいつも時間がなく、本当に演奏旅行だけで終わっています。

ところで私達品川トロンボーンクラブのホームページを自己紹介を兼ねてご紹介いたします。お時間があれば是非ご覧下さい。
<http://www.akitakomachi.net/stc/>
有難うございました。

ロイド・エリオット アメリカ作編曲家協会賞を受賞

去る4月17日 アメリカ作編曲家協会はアメリカ音楽会 特に映画音楽を中心とした軽音楽に長年功績のあった音楽家2名を表彰した。パーティーと表彰式の会場はビバリー・ガールズ・ホリデーイン

その一人はトランベッターのUen Rasey (ウアン・レイジー) 彼は「パリのアメリカ人」「雨にうたえば」「ドクトルジバゴ」「ベンハー」「ロッキー」などの有名な映画で1番トランベッターを勤め彼の弟子には人名辞典ができるほど著名な音楽家が誕生している。例えばジャック・シエルドン、アルトウーロ・サンドヴァルなどがいる。

そしてもう一人が昨年の100人のトロンボーンコンサートに出演したロイド・エリオット。彼は若くしてジミー・ドーシー(トミー・ドーシーの弟)楽団で演奏活動を始め、その後ハリウッドの音楽会で長年に渡り活躍してきた。

デビッド・ローズ、ネルソン・リドル、ヘンリー・マーシーニ、パーシー・フェイス、ヴィクター・ヤング、ジョン・ウィリアムスなど数多くの作曲家や楽団と仕事をし、1000を超える映画のサウンドトラックで演奏。

今までの50余りのアカデミー賞のうち40の映画で彼のトロンボーンを聴くことができる。



チャリティー ソロ・アンサンブル トロンボーン
フェスティバルコンサート 制作者 原尚二の炫き



な彼の音楽に指揮とバンドは十分に應えられたであろうか？ 沖田さんのフルート協奏曲は会場の雰囲気をはらりと変え、音楽も洗練され素晴らしい音とテクニックで魅了し、もっともっと聞いていたい気分させてくれた。鹿児島のメンバー

鹿児島トロンボーンプレイヤーズ(K.T.P.)としては3度目のコンサートである。これまで、何とかトロンボーンの音楽を聴衆とともに楽しみたいの一心で走り回り、900席の市民第2ホールをほぼ満杯にすることができた。今回は2000席の市民第1ホール。どれくらい埋めることができるか一年前から頭を悩ましていた。さらに、中心的存在の三窪毅(大阪センチュリー交響楽団)、岸良開城(日本フィル)の二人が仕事で参加できないことが痛かった。

結局、K.T.P.の新メンバー14人の他、地元のトロンボーン吹き30名(高校生〜一般)を募集し、スペシャルコンサートバンドを有志の協力で編成(37名)。さらに、ゲストには上野の森金管五重奏団の花坂義孝氏、鹿児島出身のフルート奏者沖田麗子さんを依頼、ソロ〜カルテット〜オクテット、47名のトロンボーンオーケストラ、総勢80名のバンドなどが出演することになった。

3月17日快晴、絶好のコンサート日和。ホールロビーからは桜島の勇姿とコバルトブルーの錦江湾がすぐ目の前に見える。リハーサル直前、大学時代の友人である白石直之、和田美亀雄、各氏からお祝いのメッセージや電話などが届き、佻威ウィンドオーケストラの萩谷克己にはプログラムにメッセージを頂いた。感謝、感謝。

13:30開場、駐車場が満杯の連絡。(まさか)1300入れば大成功としていたが、開演10分前、1500用意していたプログラムが「足りそうもありません」の連絡。

14:00コーブランドのファンファーレで開幕。アンサンブルもしたいに調子を上げてなかなかの音楽になってきた。ワグナー、ビートルズのトロンボーンオーケストラ47人は練習の成果が十分に発揮できて感嘆と驚きがあったようだ。後半は、バレエ音楽小品演奏の後、小坂達也のグレンダールの協奏曲、若々しくエネルギッシュで目つ繊細

は「バイエルンポルカ」をデュエット「ラッサストロンボーン」をトリオで、最後に全員で「76のトロンボーン」アンコールに「ムーンライトセレナーデ」を演奏して幕を閉じた。あっと言う間に時間が過ぎていった。

コンサート終了時には会場はほぼ満席。やって良かった。チャリティーコンサートの主旨に賛同して参加して下さった皆さんに心からお礼を申し上げたい。おかげさまで募金と収益金はNGOの「ベシャワール会」(アフガニスタン支援団体)と「JHP学校を作る会」(カンボジアを中心に支援する団体)に寄付することができた。

さて次回のコンサートは・・・ 100人のトロンボーン? いやいや待て待て、1~2年じっくりと考えましょう。とにかく、あまりマニアックなコンサートにならぬよう、皆さんが「また聴きに來ます」と言ってくれるようなものにしたい。もちろんチャリティーコンサートを中心に。

どうぞ今後とも鹿児島トロンボーンプレイヤーズ(K.T.P.)をよろしく。



INFORMATION

ムジカ・ムンダーナ・トロンボーン・アンサンブル&ベン・ヴァン・ダイク 特別演奏会

華麗なるトロンボーンの影響

主催：MUSICA MUNDANA TROMBONE ENSEMBLE

後援：日本トロンボーン協会 / オランダ大使館

協賛：株式会社 ネロ楽器

お問い合わせ ; yun@sky.zero.ad.jp

入場料：3000円(全席自由)

2002年7月6日(土) 19:00 開演

東京文化会館 小ホール (JR上野駅公園口下車)

Program

Ilja Reijngoud : A Beautiful Day (日本初演)

W.Warton : The Spitfire D.Bourgeois : Scherzo Fune'bre

T.Albinoni : Adagio A.Levadev : Konzert

J.Stevens : The Chief etc...

Ben van Dijk

ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団ソロ・バストロンボーン奏者。



MUSICA MUNDANA TROMBONE ENSEMBLE MEMBERS

井上 順平 井口 有里 石原 左近 大川 真紀夫 尾又 好美 勝部 健太郎 國田 雅裕 津崎 知之 東條 あづさ 堂
本 雅樹 中村 勝生 沼田 司 福井 実織 堀川 和美丸田 有里 尹 富弘 郡 恭一郎 比嘉 一博 梁井 伸一 佐久間
健二 澤野 展之 下里 高志 Piano : 高良 仁美

葛飾吹奏楽団第25回定期演奏会

平成14年7月7日(日) 1:30P.M.開場 2:00P.M.開演

かつしかシンフォニーヒルズモーツァルトホール

入場料(全席自由) 前売り 1,000円/当日 1,200円

客演 ジョゼフ・アレッシ 指揮 津田雄二郎

曲目 「トロンボーン・コンチェルト (J.テ・メイ) トロンボーンコンチェルト(曲目未定)

バレエ音楽「青銅の騎士」より (R.グリエール) 2002年度吹奏楽コンクール課題曲より

!!お待たせしました 100TROMBONES CONCERT2001CD 発売間近!!

皆さま大変お待たせしました。2月22日に発売予定でしたCDの製作が遅れていましたが やっと発売のメドが立ちました。身体の不調のためコンサートへの出演を取りやめたジョージ・ロバーツの音がCDには是非必要と思ひロイド・エリオット、ハリー・ベッツに相談、長年仕事を共にしてきた録音技師ダニー・ウォーレン、パラマウント映画社のステファニー・マーレイ各氏の協力によりロバーツ氏の録音に成功。ここまでではよかったです、(ここから言い訳になります)3月にはハリーベッツ氏のスタジオ改装で1カ月更新が途絶え、4月にはジャズステージのマスターリング(最終ミキシング)を自分たちで仕上げたいとのことマスターテープをアメリカへ送り、サイドパラマウント映画社のスタジオでロイド、ベッツ両氏は音作りをして下さったのでした。5月に入ってテープが返ってきてそれをベッツ氏に送ってOKのメールをいただいたのが6月8日、CDの録音時間80分に迫る79分17秒の演奏時間となった。定価¥3000(税込) すみません、割引ができないくらい製作費がかかってしまいました。

お申し込みは プロアルテムジケまで TEL 03-3943-6677 FAX 03-3943-6659